



|  |         |           |           |        |        |           |
|--|---------|-----------|-----------|--------|--------|-----------|
|  | English | 中文        | 交通アクセス・地図 | お問い合わせ | サイトマップ | サイト内検索    |
|  | 受験生の方   | 広大へ留学希望の方 | 一般・地域の方   | 企業の方   | 卒業生の方  | 在学生・保護者の方 |

大学案内

入試情報

教育・学生生活

研究

社会連携

留学・国際交流

学部・大学院等

研究所・施設等

広報・報道

採用情報

校友会・同窓会

支援財団・基金

図書館・博物館等

大学病院

附属学校

[トップページ](#) > [広報・報道](#) > [報道発表・報道された広島大学](#) > [平成20年1月-12月](#) > 超新星は丸くない：すばる望遠鏡で爆発する星の内部を探る

超新星は丸くない：すばる望遠鏡で爆発する星の内部を探る

広島大学学長室広報グループ

〒739-8511 広島市鏡山 1-3-2

TEL:082-424-6017 FAX:082-424-6040

E-mail:koho@office.hiroshima-u.ac.jp

(※@は半角に置き換え送信してください。)

NEWS RELEASE



平成20年1月29日

**研究成果を米国科学学術誌 Science に発表  
超新星は丸くない：すばる望遠鏡で爆発する星の内部を探る**

東京大学数物連携宇宙研究機構 (IPMU) の前田啓一特任助教、広島大学宇宙科学センターの川端弘治助教、IPMUの野本憲一主任研究員らの研究チームは、国立天文台のすばる望遠鏡で超新星を観測した結果、「超新星はどれもまん丸ではなく、つぶれた形の爆発をしている」ことを初めて確認しました。この成果は、米国科学学術誌 Science Express (online版) の2008年1月31日号に掲載されます。

「超新星は丸くない」という結果は、現代天文学でまだわかっていない超新星の爆発のしくみに迫る初の観測的結果として、今後の超新星研究と、そして密接に関係したガンマ線バーストの研究に大きな影響を与えることが期待されます。

発表雑誌: Science Express (online版) 2008年1月31日号

論文タイトル: Asphericity in Supernova Explosions from Late-Time Spectroscopy

著者: Keiichi Maeda, Koji Kawabata, Paolo A. Mazzali, Masaomi Tanaka, Stefano Valenti, Ken'ichi Nomoto, Takashi Hattori et al. (全18名)

報道解禁日時: 平成20年2月1日(金)午前4時

本件の報道解禁につきましては、新聞の場合は2月1日朝刊、テレビ・インターネットの場合は日本時間の2月1日午前4時以降となっております。ご協力方よろしくお願いいたします。

※なお、1月31日(木)の14時から、千葉県柏市にある東京大学宇宙線研究所の6階大セミナー室(601号室)で記者会見を開催します。記者会見のご案内は、東京大学から大学記者会および科学記者会にご案内しております。発表者は、この論文の筆頭著者である前田啓一氏です。

【お問い合わせ先】

広島大学宇宙科学センター 助教 川端弘治

TEL/FAX: 082-424-5765 (研究室)

研究室不在時の連絡先: 携帯電話070-5075-3634

E-mail: kawabtkj@hiroshima-u.ac.jp, kojiskawabata@pdx.ne.jp (携帯)

(@は半角@に置き換えた上、送信してください。)

東京大学数物連携宇宙研究機構 特任助教 前田啓一

TEL: 04-7136-4945, FAX: 04-7136-4944

研究室不在時の連絡先: 携帯電話080-2014-7824

E-mail: maeda@ea.c.u-tokyo.ac.jp

(@は半角@に置き換えた上、送信してください。)

広大公式アカウント一覧



Twitter



Facebook (日本語版)



Facebook (英語版)



YouTube



行事カレンダー



ストリートビュー



キャンパスカメラ



学内ポータル